

## 経営改善目標の達成に向けた取組状況

### 1 法人の概要（令和5年7月1日現在）

法人名	(公財) 神奈川文学振興会							
設立年月日	昭和57年4月1日 (名称変更：平成23年4月1日)	代表者名	理事長 村上 博					
所在地	横浜市中区山手町110	電話番号	045-622-6666					
基本財産等	110,000,000	円	県出資額	53,000,000	円	県出資率	48.2	%

### 2 法人運営における現状の課題

○当財団は指定管理者として神奈川近代文学館の運営に当たっている。令和4年度は、例年、春・秋の2回開催する特別展を3回開催した。また、当初、エレベータ工事のため展示室の休室を予定していた期間に常設展を行った。利用料金収入、事業収入とも好調であったが、ウクライナ情勢の影響により電気代が高騰し、施設の老朽化による修繕工事も増加したことにより、増収のほとんどを、維持費に充てざるを得なかった。今後は更に、維持費だけでなく諸物価高騰の影響も予想されることから、従来どおりに事業を行うためには、一層の経費節減と収益増のための方策が必要となり、難しい舵取りが求められる。

○積極的な取組により、展示観覧者数は回復したが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、都度の感染状況に応じてイベント定員を70%から最大95%までとして開催したことで、講演会等受講料収入が減少した。今後も感染症対策に配慮しつつ、バランスのとれた事業を展開し、事業収入の継続的な確保に努めたい。

○令和4年度までの県の要請による会議室新規予約受付停止等により減少した会議室利用を回復するため、設備備品の充実を図り、利便性を高めていきたい。

○荷物用エレベータ1機の更新工事に際し、現場工事の日程見通しがたたないため、令和5年度以降も工事期間の展示室休室を行わないこととし、今後の展示日程にも休室を組み入れなかった。令和6年度になると見込まれる現場工事の間、騒音にどのように対応するか検討している。

### 3 経営改善目標の達成に向けた取組実績等

\* 項目ごとに、下段の( )内に目標を、上段に実績を記載してください。

#### 【県民サービスの向上】

No.	項目	単位	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	4年度自己評価
1	利用者数（展示・閲覧・会議室利用） （下段は展示関連動画等閲覧数）	人	29,787 ( 48,300 )	57,983 ( 48,400 )	( 60,400 )	( 60,600 )	( 60,800 )	A
		件	7,066 ( 2,600 )	5,295 ( 2,700 )	( 2,800 )	( 2,900 )	( 3,000 )	
	自己評価（目標未達の場合はその理由）				今後の取組方針（目標未達の場合は必ず記載）			
	例年2回の特別展を4年度は3回開催した。また、当初、エレベータ工事のため展示室の休室を予定していた期間に常設展を行った。来館者を増やす試みとして、オンラインゲームやコミックスとのコラボを行い、多くの若年層を呼び込むことにも成功したことから、展示会の総観覧者数は41,572人となり、コロナ禍前の水準に回復した。一方、会議室の利用者数は依然として回復せず、コロナ禍前（平成30年度）の約46.8%に留まった。				引き続き、様々な取組により、来館利用者数の回復に努めたい。また、展示関連動画等の告知に努め、閲覧数を伸ばしていきたい。また、会議室利用者数については、利用形態の変化に応じた設備備品の充実を図り、利便性を高めることが必要であると考え。			
備考								
荷物用エレベータの工事延期により、工事期間（令和4年12月1日～令和5年3月31日）の展示室の臨時休室を取りやめ、常設展を開催した。								

No.	項目	単位	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	4年度自己評価	
2	若年層向け行事参加者数 (下段はオンラインによる視聴数)	人	375 ( 800 )	752 ( 850 )	( 900 )	( 950 )	( 1,000 )	B	
		件	552 ( 170 )	212 ( 190 )	( 210 )	( 230 )	( 250 )		
	自己評価 (目標未達の場合はその理由)				今後の取組方針 (目標未達の場合は必ず記載)				
	高等学校文化連盟図書専門部会との共催行事は、感染症対策のため人数を制限しての開催となり、加えて例年夏に開催する児童文学展に併せて行う朗読会を別企画で行ったため、参加者数が目標に届かなかった。紙芝居のオンライン配信は、新たなコンテンツを追加できずにおり、今後の視聴数に課題が残る。				新型コロナウイルス感染症拡大防止に配慮しつつ、引き続き、子ども向けデジタルコンテンツ等、対面のイベント以外にも事業の可能性を探りたい。				
	備考								
3年度に公開した「佐藤さとの展—『コロボックル物語』とともに—」展覧会ダイジェストは、4年度中に427件の視聴があった。									

No.	項目	単位	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	4年度自己評価
3	パネル巡回文学展の実施校数 (下段は内、データ版によるパネル展利用数)	校(館)	28 ( 16 )	30 ( 16 )	( 16 )	( 16 )	( 16 )	A
		校(館)	10 ( 7 )	11 ( 7 )	( 7 )	( 7 )	( 7 )	
	自己評価 (目標未達の場合はその理由)				今後の取組方針 (目標未達の場合は必ず記載)			
	県内を中心に中・高等学校の図書室等へのパネル文学展の巡回を実施した。4年度も引き続き、公共図書館のパネル展示も行った。従来のパネル展の利用に加え、学校でのデータ版の活用も呼び掛け、実施校を増やすことができた。				引き続き、学校に向けてのパネル文学展広報の充実を図り、利用数の維持に努めるほか、公共図書館等にも利用を呼び掛けたい。			
	備考							

No.	項目	単位	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	4年度自己評価
4	HPアクセス数	件	192,549 ( 127,500 )	282,258 ( 128,000 )	( 172,000 )	( 172,500 )	( 173,000 )	A
	自己評価 (目標未達の場合はその理由)				今後の取組方針 (目標未達の場合は必ず記載)			
	HP、SNS等での発信に加え、引き続き、新たなコンテンツ公開も継続している。また、展覧会でオンラインゲームやコミックスとのコラボ企画を行ったこともアクセス数の増加につながった。				今後も新たにコンテンツを公開し、HP、SNS等での発信に加え、動画コンテンツ、資料アーカイブ等の充実も図っていきたい。			
	備考							

No.	項目	単位	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	4年度自己評価
5	「神奈川近代文学館友の会」の会員数 (下段はメールマガジン登録者数)	人	848 ( 850 )	1,033 ( 900 )	( 950 )	( 1,000 )	( 1,000 )	A
		人	1,728 ( 1,725 )	1,865 ( 1,775 )	( 1,825 )	( 1,875 )	( 1,925 )	
	自己評価 (目標未達の場合はその理由)				今後の取組方針 (目標未達の場合は必ず記載)			
	<p>展示観覧者数の増加と呼応して友の会会員数も回復の兆しが見られ、目標の会員数に達することができた。また、メールマガジン登録者数も目標を達成することができた。</p>				<p>引き続き、友の会文学散歩等への参加やイベントチケット確保の利便性などの特典をアピールし、会員数の維持、新規獲得に努めたい。また、メールマガジンについては、公式noteでメールマガジンの内容と重なる機関紙記事抜粋の公開を開始したことにより、メールマガジンに登録せず、公式noteで閲覧する方も増えたと考えられる。今後は新たな枠組に対応した運営を検討していきたい。</p>			
備考								

### 【収支健全化に向けた経営改善】

No.	項目	単位	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	4年度自己評価
1	利用料金収入	千円	7,654 ( 8,059 )	14,674 ( 8,259 )	( 8,559 )	( 8,859 )	( 9,259 )	A
		自己評価 (目標未達の場合はその理由)				今後の取組方針 (目標未達の場合は必ず記載)		
	<p>例年2回の特別展を4年度は3回開催した。また、当初、エレベータ工事のため展示室の休室を予定していた期間に常設展を行った。各展覧会の好調により観覧料収入は予算額を上回ったが、会議室の利用件数は回復せず、会議室使用料収入は予算額に届かなかった。</p>				<p>引き続き、新型コロナウイルス感染症拡大防止に配慮し、利用料金収入の回復基調維持に努めたい。また、会議室使用料収入については、設備備品の充実を図り、利便性を高めることが必要であると考えます。</p>			
	備考							
<p>荷物用エレベータの工事延期により、工事期間（令和4年12月1日～令和5年3月31日）の展示室の臨時休室を取りやめ、常設展を開催した。</p>								

No.	項目	単位	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	4年度自己評価
2	事業収入	千円	4,327 ( 5,530 )	6,351 ( 5,830 )	( 6,130 )	( 6,430 )	( 6,630 )	A
		自己評価 (目標未達の場合はその理由)				今後の取組方針 (目標未達の場合は必ず記載)		
	<p>新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、都度の感染状況に応じてイベント定員を70%から最大95%までとして開催したことで、講演会等受講料収入が減少した。一方、例年2回の特別展を3回開催し、刊行物販売収入が増加した。</p>				<p>引き続き、新型コロナウイルス感染症拡大防止に配慮し、収入の確保に努めたい。</p>			
	備考							

No.	項目	単位	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	4年度自己評価
3	年間電力使用量	kwh	707,648 ( 781,300 )	682,453 ( 781,100 )	( 780,900 )	( 780,700 )	( 780,500 )	A
	自己評価（目標未達の場合はその理由）				今後の取組方針（目標未達の場合は必ず記載）			
	新型コロナウイルス感染症拡大防止のために必要な換気量に配慮しつつ、節電に努めた。県の計画修繕工事により、空調機関係の設備更新が行われたことでも一定の節電効果を得られている。				今後も節電対策を進めたい。			
	備考							

No.	項目	単位	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	4年度自己評価
4	年間電力料金	千円	17,902 ( 19,350 )	23,143 ( 19,300 )	( 19,250 )	( 19,200 )	( 19,150 )	A
	自己評価（目標未達の場合はその理由）				今後の取組方針（目標未達の場合は必ず記載）			
	年間電力使用量の削減目標を達成し、また、最大電力使用量に留意することで、料金の抑制に努めたが、燃料費調整単価の上昇により、料金の総額が上昇した。				燃料費調整単価の上昇により目標を下回ったが、年間電力使用量は前年度より減少したため、A評価とした。 今後も照明のLED化等の節電対策を進めるとともに、空調機等の運転設定により電力料金の節減を図りたい。			
	備考							

#### 4 取組実績等についての総括（法人）

○例年、企画展を実施する初夏に「生誕100年 ドナルド・キーン展－日本文化へのひとすじの道」を特別展として実施し、春の「生誕110年 吉田健一展 文學の楽しみ」、秋の「没後50年 川端康成展 虹をつむぐ人」と合わせ、計3回の特別展を行った。冬季には荷物用エレベータ1機の更新工事のため展示室の休室を予定していたが、資材供給状況により工事が延期となったため、コーナー展示「夏目漱石特別コレクションから一漱石あて絵はがきを中心に」を併設して常設展を2回開催した。その結果として、年間展示入館者数は41,572人となり、3年ぶりに4万人台を回復した。今後も感染症対策に留意しつつ、利用者数の更なる増加に努めたい。

○展示企画に連動した講演会等の行事、児童向け行事を含む文字・活字文化振興事業などのイベントを感染症対策に留意し実施した。高等学校文化連盟図書専門部との協力事業は、感染症対策のため定員を絞っての開催となったが、文字・活字文化振興の一つであるパネル文学展巡回事業では、令和2年度、3年度に引き続き、データ版による提供も行った。今後も、中・高・大学などの教育機関、類似施設、出版社、企業団体との連携を図り、若年層を中心にあらゆる世代へ周知を行い、利用者数の更なる増加と知名度の向上に努めたい。

○県内小・中・高等学校への巡回パネル文学展については、データによるパネル文学展の提供数を維持することができた。川端康成展では「文豪とアルケミスト」、常設展で「文豪ストレイドッグス」とのコラボを行い、多くの若年層を呼び込むことにも成功した。また、ワークシートを提供することで、展示をじっくり観てもらうことができた。引き続き、高等学校文化連盟図書専門部会や小・中・高校との連携を図り、若年層のリピーターを増やしていきたい。

○外部組織と提携した講演会や朗読会、文芸映画会などを展覧会と連動させて共催し、展示動員を図りつつ、生涯学習支援の活動にも力を注ぎたい。

## 5 取組実績等についての総括（所管課）

○令和4年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、都度の感染状況に応じてイベント定員を70%から最大95%に制限したため、講演会の受講料収入等は減少したが、特別展の開催回数を増やしたことや、オンラインゲームやコミックスとのコラボなど積極的な取組を行ったことで、利用者数や利用料金収入は目標を達成した。引き続き、利用者の獲得に向けた積極的な取組を継続してもらいたい。

○中・高等学校に展示パネルの貸出を行う「パネル巡回文学展」の実施校数は27校及び図書館3館となり、目標を達成するとともに、令和2年度から開始したパネル展のデータ提供についても利用数を増やすことができた。このような取組は若年層が文学に親しむきっかけになるため、今後も継続していくことが期待される。また、紙芝居や絵本の読み聞かせ等の若年層向けイベントは、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、定員を減らして実施したことなどにより目標を下回ったが、オンライン公開の取組を継続しており、令和4年度は目標を超える212件の視聴があった。今後もデジタルコンテンツの拡充など、新たな取組が期待される。

○令和3年度に課題となった友の会会員数については、展示観覧者数の増加に伴い、目標を達成した。友の会等の固定的な利用者を確保することは安定的な経営を続けるために重要であるため、引き続き、会員数の維持、新規獲得へ向けて積極的に取り組んでもらいたい。また、メールマガジンの登録者数も目標を達成しており、公式noteで当該メールマガジンと重なる内容の発信を開始していることから、来館者、未来館者を問わず近代文学館に関心を持つことのできる機会を増やしていることも評価できる。

○前年度に引き続き、照明のLED化を徐々に推進するなど節電対策に取り組み、年間電力使用量は目標を達成することができたが、燃料費調整単価の上昇により年間電力料金は目標の達成には至らなかった。電力料金の値上がりは先行きが見通せない部分もあるが、今後も様々な側面で経費削減に向けた工夫を続けていってもらいたい。

## 6 第三セクター等改革推進部会の総合評価・今後の取組に向けた意見

評価結果	
A	概ね着実に取組が進められている。